

令和6年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立馬込小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・英語の基礎において、正答率が目標値を上回った。特に知識・技能の観点において、目標値の平均値と比べ上回った。アルファベットや日常の会話・挨拶について、必要な情報を聞き取る学習を毎時間行っている成果が表れている。
- ・聞くこと・読むこと領域において、アルファベットの読み（聞く）、日常会話の理解（聞く）、会話全体の理解（聞く）、単語の読みの内容は、目標値を上回った。アルファベットの識別とその読み方の定着を図る指導を行っている成果が表れている。

(2) 課題

- ・英語の活用において、正答率が目標値を下回った。英語を活用する場面設定を考えて授業を工夫する必要がある。
- ・書くことの領域（記述の解答形式）において目標値を下回った。書くことに苦手意識をもつ児童への支援が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（同一集団の経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第6学年	・目標値を大きく上回っている。	/	/

(2) 令和6年度の結果分析（観点別）

・高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身近で簡単な語句や対話を聞き、その意味を理解する問題の正答率が高い。英語の音声に慣れ親しんでいる結果と考えられる。 ・アルファベットの読みは目標値に達成しているが、アルファベット小文字の書きに課題がある。 ・「動物」、「色」、「おかし」といった単語の読みは目標値と全国正答率を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に関する対話を聞き、目的や場面、状況などを推測する問題や、短い物語を聞き、話の概要を捉える問題の正答率が高い。 ・もののありかをたずねる場面で、対話の流れから、適切な表現を判断して書くことは目標値や全国正答率を上回っている。 ・道案内を聞き、具体的な情報を聞き取る問題は目標値や全国正答率を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英作文を苦手とする児童の、主体的に学習に取り組む態度の結果が、目標値をやや下回っている。伝えたい内容があっても書くことに課題があると考えられる。書くことに苦手意識をもたせない工夫が必要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・例文を参考にしながら、自分のあこがれの人について、簡単な語句や基本的な表現を用いて書く問題の正答率が低い。書くことに課題が見られる。 	
--	---	--

3 授業改善のポイント（観点別）

・中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を示しながら話したり、繰り返し音声を聞いたり、話したりする活動を行ったことにより、基本的な表現に親しめるようにする。 ・歌やチャンツを多用し、文字に親しませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを相手に伝えるための工夫を考えたり、コミュニケーションのポイント（アイコンタクト・笑顔・リアクション等）を用いたりして相手に伝えることを大切にした活動ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が伝えたいと思うような課題設定をする。 ・教師とALTがモデルを示すことで、児童自身がイメージをもって活動に取り組めるようにする。 ・休み時間の英語カフェや給食時に外国語の歌を流すグローバルフライデーを通して外国語に親しむ機会を設ける。

・高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・音声に十分に慣れ親しんだ単語や英文を書く活動を取り入れる。 ・単語を選択させたり、文字を書くデジタルコンテンツを利用したりすることで、アルファベットを書くことに慣れ親しめるようにする。 ・アルファベットを書く課題は継続してくりかえし行う。四線を意識させて文字指導を行う。 ・英文を書く活動では、児童同士が書き方のポイントをチェックし合う時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の単語や表現を用いて発表したり、コミュニケーションのポイント（アイコンタクト・笑顔・リアクション等）を用いたりして、相手に伝えるための工夫を考えられた活動ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合った英語を使う場面を設定し、質問したり答えたりして、友達と会話を続けられるようにする。 ・ペアワークや少人数のグループワークを取り入れて、一人一人が発話できる場面を設定する。 ・休み時間の英語カフェや給食時に外国語の歌を流すグローバルフライデーを通して授業で学習したことを生かす機会を設ける。